

会議結果報告書

- 1 会議の名称
第 17 回光市都市計画審議会
- 2 開催日時
令和 7 年 1 月 9 日（木） 午後 2 時から午後 3 時まで
- 3 開催場所
光市役所 3 階 大会議室 1・2 号
- 4 出席委員
光市都市計画審議会委員 21 人中 16 人
- 5 傍聴
2 人
- 6 公開・非公開
公開

7 会議の議事録（要旨）

（1）市長あいさつ

改めまして皆さまこんにちは。

昨年 11 月に光市長に就任いたしました芳岡統でございます。もしお知りおきいただけない方がいらっしゃいましたら、どうぞよろしくお願いいたします。私はこの度、市長選に出馬するにあたって、「みんなが大好きになるまち光」を掲げさせていただきました。ここでのみんなと言うのは、光市民だけでなく、市外、県外、そして関係人口交流人口、これを含む多くの皆さん、さらに今を生きる我々だけでなく将来このまちに関わる皆さん、これら全てを含めてみんなと表現をさせていただきました。

こうした将来にわたるまちづくりを考える、これこそが都市計画だと言えるのではないかと考えております。そうした中、人口減少進む中、また、世界規模でいろんな環境変化する中で、SDGs、持続可能な社会を実現していかなければならない。こうした持続可能な社会を実現するための政策決定の手法として、フューチャーデザインという言葉がよく用いられるようになってきています。

この言葉、この研究の第一人者である経済学者で、京都先端科学大学の特任教授である西條辰義氏は、フューチャーデザインを、「人々が将来可能性を発揮できる社会の仕

組みのデザインとその実践として、その将来可能性については私達現代世代が自分の利益を差し置いても、次世代への利益を優先する可能性」と定義づけていらっしゃる。

今日ご審議いただくことになっております立地適正化計画の策定というのは、まさにこのフューチャーデザインの考え方をしっかりと肝に銘じていかなければならないものだと考えております。どうしても自分の利益、また自分本位で考えてしまうというのは、やむを得ないことかもしれませんが、ぜひこのフューチャーデザインという理念を持って、今後のご審議にあたっていただきたいと思います。

本日は、長時間になるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 会長（職務代理者）あいさつ

皆さまこんにちは。目山会長の欠席により、急遽会長の職務を代理させていただくこととなります。石川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

前回の会議は昨年2月に開催しており、約1年ぶりの会議になりますが、前回に引き続き光市立地適正化計画に関する内容が今回の議題となっております。立地適正化計画とは、人口が減少する中においても、誰もが暮らしやすく持続可能なまちを実現するための計画と思います。

その計画改定案についてご意見をいただくことになろうかと思います。専門用語など難しい部分があるかとは思いますが、忌憚のないご意見をいただきますとともに、会議が円滑に進みますようお願い申し上げまして、簡単でございますが挨拶とさせていただきます。

(3) 定足数の確認

本会の委員21人中、16人出席があり、2分の1以上の委員の出席があるため、本会議は成立

(光市都市計画審議会条例第5条第3項の規定による)

(4) 会議録署名人の指名

会長（職務代理者）及び会長が指名する2人の委員として、早稲田真弓委員、寺田智子委員を指名

(5) 議事

【議案第1号】光市立地適正化計画の改定について

(質疑応答)

質問① 居住促進区域や都市機能誘導区域に指定されない地域は今後どうなるのか。
例えば、市街化調整区域が広がっていくのか。また、土地の価格はどのように

変動する見込みであるか。

回答① 居住促進区域外であっても、今まで同様に住み続けることは可能。また現在用途地域が指定されているが、居住促進区域や都市機能誘導区域に含まれなかった区域を市街化調整区域にするということはない。

土地の価格の変動については、先行自治体の動向を見てもあまりないようである。立地適正化計画によりコンパクトなまちづくりを推進しない場合、まちの都市機能が徐々に失われ、まち全体の地価が下がることが予測される。立地適正化計画に基づきコンパクトなまちづくりを行うことで、まち全体の地価を底上げすることにもつながる。

質問② P 1 1 0で居住促進区域の人口密度の目標を設定しているが、この目標は市全体として令和22年度の人口を将来推計人口よりも5%増加させるということか。

回答② こちらの図は、光市総合計画に記載している、将来推計人口と本市が目指す人口の将来展望を表すもの。令和22年度においては、社人研推計は人口が38,266人であるが、光市総合計画や光市立地適正化計画に基づく様々な施策により、人口減少をゆるやかにし、人口40,197人を目指すというもの。こちらをパーセンテージで示し、5%人口の上乗せとしている。コンパクトシティを目指す取組を行うことで居住促進区域内の人口減少をさらに緩やかにしていこうとするもの。

質問③ 人口減少化で本計画を改定の検討、コンパクトなまちづくりを進めるうえで、今後の財源や市民の税金については、どのように考えられているか。

回答③ 本計画は、人口減少が進んだとしても、現在の利便性を維持しようとするものである。財源の内訳に関する詳しい内容の記載はない。

質問④ 今後の税収の予測や、市民税の負担の増加などの検討はされていないのか。

回答④ 本計画に記載している誘導施策等にかかる金額の記載、表現はしていない。

質問⑤ 財源次第では、本計画はどうなるかわからないということか。

回答⑤ 本計画は行政だけではなく、民間の施設なども集約し、コンパクトなまちづくりを進めていこうというものである。P 7 8～8 4にかけて記載している、様々な誘導施策を行いながら民間と連動しながらコンパクトなまちづく

りを進めていきたいと考えている。

P 3に記載している図のとおり、人口減少化で税収が少なくなる、街に活気がなくなっている状況を解決し、人口減少化においても現在と同様の暮らしを維持するために、本計画に基づくコンパクトなまちづくりを推進していく必要がある。コンパクトなまちづくりを推進することは財源の確保にもつながるものである。

質問⑥ P 6 5 と P 7 0 に都市機能誘導区域の区域界を示す赤色の線があるが、細くてわかりにくいため、わかりやすくしてほしい。

回答⑥ わかりやすく見えるよう修正を行う。

質問⑦ P 8 0 の施策（１）防災・減災対策の推進の事業例２に島田川水系河川整備計画の促進とあるが、「計画の促進」という表現は使わない。「河川改修の促進」などの記述に見直した方が良いのではないかと。

回答⑦ 適切な記述を行う。

(答申)

意見なし